

郡上みらい会議とは・・・

郡上市が来年度からの10年に向け、第2次総合計画を策定するにあたり、より広く市民の意見を反映した計画にしたいという方針から、この会議を「総合戦略市民会議」と位置づけ、昨年末からテーマごとの市民

会議を開催してきました。今年度から、協働センターが市から事業運営を受託して実施しています。

第5回みらい会議 テーマ「10年先の郡上をデザインする」

10年後の地域がどうなっているのか？郡上で生き生き幸せに暮らしていくために必要な地域の未来図をみんなで話し合い、描いてゆこうという主旨で開催。

設問1. この10年の地域ブランド・地域デザインはどこまで達成できたのか？(抜粋)

- (一歩前に進んだ) 協働センターができ、住民自治基本条例ができた。移住交流が進んだ。
(もう一息) 人口問題についてまだまだ市民の認識が至っていない。移住交流の取り組み。
(悪くなったこと) 働く場所が十分ではない。市外に出た子供が戻ってこない。
(総括的意見) 人口減少や少子高齢化により様々な問題が出てきた10年であった。
一方で郡上市としての新たな取り組みが始まった10年でもあった。
まちづくりに対する温度差をいかに解決していくかが課題。

設問2. これからの10年をデザイン(計画)するのに必要なものは何でしょうか？(抜粋)

- ・働く場所として、テレワークなどの新たなワークスタイルの確立。
- ・田畑で仕事しながら自給生活の暮らしを都市にアピールする。
- ・市外、都市部との連携やつながりなど、地域を越えた情報共有。
- ・できないことはきりが無い。出来ていることにフォーカス(集中)する。
- ・やりたいこと、実現したい未来を描き、そのために何をするかを考える。(→企業的感觉)
- ・有識者会議を**有意識者会議**にする。行政・市民・企業が協働で取り組んでいく。



第6回みらい会議 テーマ「仕事と働き方の未来図」

郡上の未来で最も心配な仕事の問題。いくら郡上が良くても、仕事が無ければ暮し続けられない。今回は、(有)KEIZ・Takara Gallery workroomの上村 大輔さんに事例発表をしていただきました。

設問1. 将来的に見て、郡上で今後どんな仕事の領域が成長・発展可能と考えますか？(抜粋)

- (観光について) ・プロの盆踊り師・郡上踊り世界ツアー
・ウインターツーリズムをもっと海外にアピール
・外国人専用のまちやゲストハウス(宿泊施設)
・なくなったレトロな町並み商店の復活(劇場・駄菓子・銭湯)
- (農林水産) ・家庭菜園の生産流通代行業・観光農園
・マルシェ ・農林水産業の六次産業化
・小水力発電 ・太陽光発電・木質バイオマス燃料
- (食と癒し) ・リラックス産業 リラックスしながら仕事ができる環境
・都会者向けメンタルヘルス事業
- (福祉産業) ・高齢者用運転代行を特区で ・医療とスポーツをあわせた健康産業
・シルバー世代が楽しめる商店街(プラチナストリート)
- (情報発信) ・郡上全体をマネジメントする仕事 PRなどを組織的にこなう
・田舎暮らしコーディネーター ・ストレスフリーの田舎でITビジネス